

大学生の自然保護制度及び自然公園に対する認識について ～富士箱根伊豆国立公園・箱根地区を対象として～

○下嶋 聖 [東京農業大学]

キーワード：自然公園 認識 景観評価 GIS

1. はじめに

自然公園制度が発足されてから 80 年たち、自然公園法に基づき国内には 29 カ所の国立公園、56 カ所の国定公園、309 カ所都道府県立自然公園が設置されており、国土面積に対して 14.2%を占めている¹⁾。3 つの自然公園の内、特に国立公園の利用者数は 3 億 4 千万人を超え、単純計算すると年間国民 1 人あたり 2 回訪れていることになる。この国立公園の多くは、国内有数の観光地と重なり、多くの国民が国立公園に触れていることを示唆している。環境省が 2001 (平成 13) 年に環境省のホームページ上で実施した国立公園に関するアンケート調査²⁾を見ると、回答者の 9 割以上が国立公園の存在は認知しているものの、地図に示された範囲における国立公園の認知については、知っていると回答した割合は 1 割程度に低下しており³⁾、国立公園の位置を正確に認知している人は少ないことが伺える。

レジャー、観光で訪れることの多い国立公園において、日常体験から非日常体験に切り替わる際、環境配慮や自然体験への期待などの意識付けに欠かせないのが、国立公園の公園界である。近年、幹線道路脇に国立公園のエントランスを示す看板の設置が見受けられるようになってきたものの、公園界の位置が、来訪者に対して十分認識されていないのが現状である。

そこで本研究では、どこに国立公園がありどこから国立公園と認識するか (以下入園認識とする)、景観評価を用いて明らかにし、併せて現行の自然保護制度の認識度と被験者の属性との関係性について調べて、国立公園及び自然公園制度に対する意識構造を考察することを目的とする。

2. 研究方法

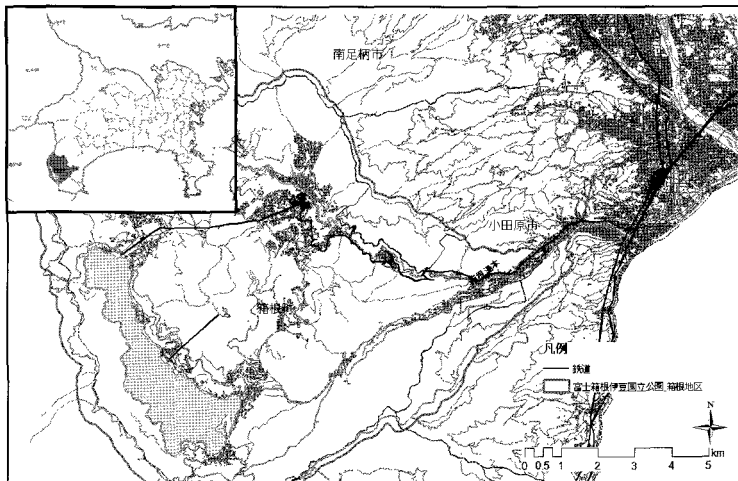


図 1 研究対象地

2-1 研究対象地

対象地は、富士箱根伊豆国立公園・箱根地区とした。富士箱根伊豆国立公園は、1936 (昭和 11) 年に指定され、国立公園の中でも年間利用者数が最も多い国立公園である。箱根地区は、東京近郊に位置し、火山景観、数多くの温泉群を有し国内有数の観光名所である。

2-2 調査方法

入園認識を把握するため、まず景観評価に使用する画像を準備した。画像の撮影地点を神奈川県小田原市から箱根町にかけて通る国道1号線沿いにおいて、富士箱根伊豆国立公園の公園界を中心に7カ所を選定した。選定に当たって、あらかじめGIS（使用ソフト：ArcGIS9.3 ESRI社製）上に道路、国立公園の範囲を示したデータを重ね、両者の交点を空間解析より抽出し、撮影地点の選定の基準とした。選定した場所は、①（小田原厚木道路の）箱根口IC：公園外、②入生田駅：公園外、③山崎交差点先：公園界（普通地域）、④箱根町役場前：公園内（普通地域）、⑤箱根湯本駅：公園内（普通地域）、⑥旭橋：公園内（特別地域）、⑦函嶺洞門：公園内（特別保護地区）、である（図2）。7カ所の撮影地点の座標値を算出し、現地にてGPS受信機で位置を確認した上で写真撮影を行った。

景観評価の被験者は関東近郊の大学生を対象とした（表1参照）。景観評価は、画像を教室内に設置しているスクリーンに投射させ、被験者は座った状態で行った。東京方面から車で箱根方面に向かってきていることを想定し、1番から順に提示した。提示回数は2回、1枚あたり15秒程度提示した。使用したアンケート票の質問項目は、入園認識（どの画像から国立公園に入ったか）、自然保護制度の認識、属性（性、年齢、趣味、知っている自然公園、来訪したことのある自然公園、自然への嗜好性）などである。

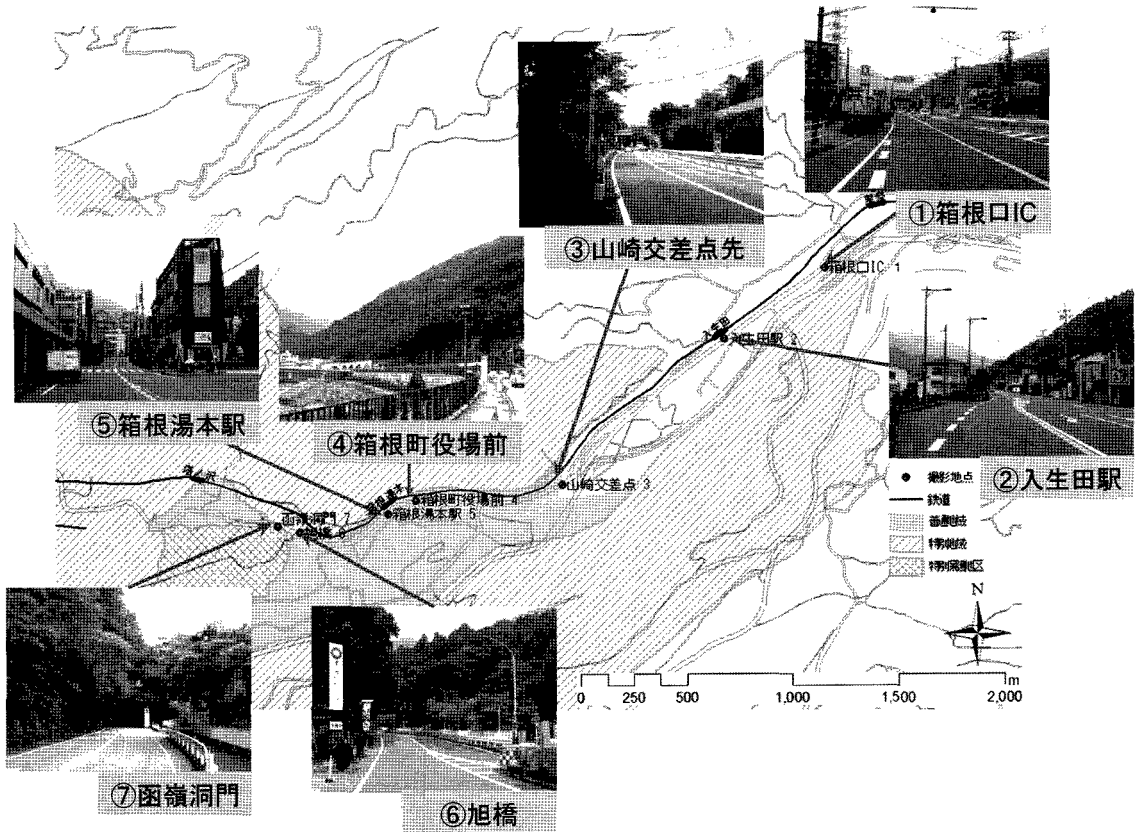


図2 景観評価に使用した写真画像と撮影位置

表 1 景観評価の実施概要

景観評価を実施した大学	学生像の概要	学年	実施日	配布数	アンケート調査 同意者数	有効回答数
東京農業大学 短期大学部環境緑地学科:T大	農学系総合大学・ 環境や緑に興味を持つ学生	1年生	2009年6月12日	70	68	62
東京情報大学 総合情報学部環境情報学科:J大	情報学系大学・ 情報と環境に興味を持つ学生	1年生	2009年7月13日	91	80	78
神奈川大学 人間科学部人間科学科:K大	文理系総合大学 人間社会コースの学生	3年生	2010年4月27日	20	19	19
				合計	181	159

3. 結果

景観評価で実施したアンケート調査の結果を表 2 に示した。自然公園に対する質問について大学別に見ると、知っている自然公園、訪れたことがある自然公園について T 大学の学生の指摘数が高く、次いで K 大学、J 大学の順であった。自然に対する嗜好の高さは、T 大学、J 大学、K 大学の順であった。各大学の学生像が結果に表れているといえる。

表 2 アンケート調査の結果

■属性		人	割合	■自然公園に対する質問		人	割合						
性	T大 男	30	48%	知っている自然公園	なし・無回答	32	52%	訪れたことがある自然公園	なし・無回答	33	53%		
	T大 女	32	52%		T大 1つ以上	自然公園を挙げていた	20		32%	T大 1つ以上	自然公園を挙げていた	16	26%
	J大 男	60	77%		J大 1つ以上	自然公園以外を挙げていた	10		16%	J大 1つ以上	自然公園以外を挙げていた	13	21%
	J大 女	18	23%		なし・無回答	なし・無回答	64		82%	なし・無回答	なし・無回答	64	82%
	K大 男	10	53%		J大 1つ以上	自然公園を挙げていた	2		3%	J大 1つ以上	自然公園を挙げていた	4	5%
	K大 女	9	47%		なし・無回答	なし・無回答	12		15%	J大 1つ以上	自然公園以外を挙げていた	10	13%
	全体 男	100	63%		K大 1つ以上	自然公園を挙げていた	5		26%	K大 1つ以上	自然公園を挙げていた	9	47%
	全体 女	59	37%		なし・無回答	なし・無回答	7		37%	K大 1つ以上	自然公園以外を挙げていた	4	21%
	T大 10代	56	90%		全体 1つ以上	自然公園を挙げていた	29		18%	全体 1つ以上	自然公園を挙げていた	24	15%
	T大 20代	5	8%		全体 1つ以上	自然公園以外を挙げていた	29		18%	全体 1つ以上	自然公園以外を挙げていた	29	18%
年齢	T大 無回答	1	2%	自然に対する嗜好性	1 とても都会がすき	0	0%	平均値	標準偏差	5.2	1.3		
	J大 10代	64	82%		T大 1つ以上	自然公園を挙げていた	16					26%	
	J大 20代	12	15%		T大 1つ以上	自然公園以外を挙げていた	13					21%	
	J大 無回答	2	3%		J大 1つ以上	自然公園を挙げていた	64					82%	
	K大 10代	0	0%		J大 1つ以上	自然公園以外を挙げていた	10					13%	
	K大 20代	19	100%		なし・無回答	なし・無回答	9					47%	
	全体 10代	120	75%		K大 1つ以上	自然公園を挙げていた	4					21%	
	全体 20代	36	23%		全体 1つ以上	自然公園以外を挙げていた	6					32%	
	全体 無回答	3	2%		なし・無回答	なし・無回答	106					67%	
	趣味の数	なし・無回答	6		10%	全体 1つ以上	自然公園を挙げていた					24	15%
T大 1つ		13	21%	全体 1つ以上	自然公園以外を挙げていた	29	18%						
T大 2つ		16	26%	1 とても都会がすき	0	0%							
T大 3つ		11	18%	2 都会がすき	0	0%							
T大 4つ以上		15	24%	3 どちらかといえば都会がすき	6	10%							
J大 1つ		14	18%	4 どちらともいえない	14	23%							
J大 2つ		29	37%	5 どちらかといえば自然がすき	14	23%							
J大 3つ		17	22%	6 自然がすき	16	26%							
J大 4つ以上		13	17%	7 とても自然がすき	12	19%							
全体 1つ		5	6%	1 とても都会がすき	7	9%							
座席位置	なし・無回答	1	5%	2 都会がすき	4	5%	平均値	標準偏差	3.9	1.5			
	T大 1つ	6	32%	3 どちらかといえば都会がすき	12	15%							
	T大 2つ	5	26%	4 どちらともいえない	18	23%							
	T大 3つ	2	11%	5 どちらかといえば自然がすき	19	24%							
	T大 4つ以上	5	26%	6 自然がすき	11	14%							
	J大 1つ	21	13%	7 とても自然がすき	5	6%							
	J大 2つ	48	30%	1 とても都会がすき	1	1%							
	J大 3つ	5	26%	2 都会がすき	1	1%							
	J大 4つ以上	25	16%	3 どちらかといえば都会がすき	5	6%							
	座席位置	前の方	28	45%	4 どちらともいえない	5					6%	平均値	標準偏差
T大 真ん中付近		22	35%	5 どちらかといえば自然がすき	1	1%							
T大 後ろの方		11	18%	6 自然がすき	2	3%							
J大 前の方		24	31%	7 とても自然がすき	1	1%							
J大 真ん中付近		30	38%	1 とても都会がすき	8	5%							
J大 後ろの方		24	31%	2 都会がすき	11	7%							
K大 前の方		5	26%	3 どちらかといえば都会がすき	31	19%							
K大 真ん中付近		11	58%	4 どちらともいえない	37	23%							
K大 後ろの方		3	16%	5 どちらかといえば自然がすき	36	23%							
全体 前の方		57	36%	6 自然がすき	25	16%							
全体 真ん中付近	63	40%	7 とても自然がすき	13	8%								
全体 後ろの方	38	24%											

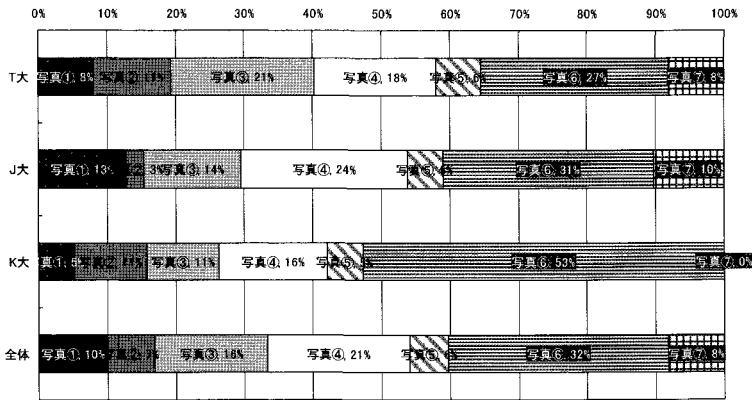


図3 景観評価の結果

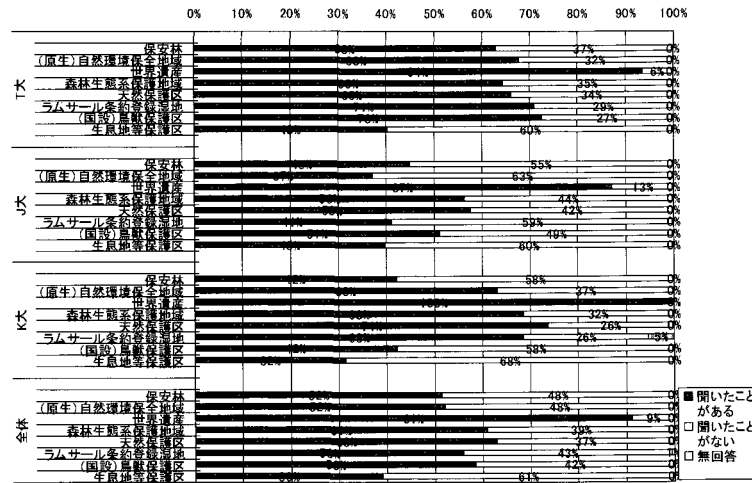


図4 自然保護制度に対する認知度

考えられる。もっとも認知度が低かったのは、T大学、K大学では「生息地等保護区」、J大学では「(原生)自然環境保全地域」であった。両者とも制度発足当初は所管官庁から周知が促されていたものの、現在では周知度合いが低下し、メディアなど情報媒体から存在を知る機会も少ないことが認知度を下げているものと考えられる。

以上、富士箱根伊豆国立公園・箱根地区を対象に入園認識と自然保護制度に対する大学生の認知度について明らかにした。今後、被験者の属性について詳細に統計的解析を行い、属性や自然公園に対する認識度の違いによる入園認識の意識構造について明らかにしたい。

補注及び引用文献

- 1) (財)国立公園協会編：2009 自然公園のてびき，2009.
- 2) 環境省：国立公園に関するアンケート集計結果，環境省ホームページ，2001.
<http://www.env.go.jp/nature/park_an/index.html>
- 3) 回答者は、「環境省回答者（環境省ホームページ経由の回答者）」と「その他の回答者（インターネット・アンケート会社会員の回答者）」の2属性があり、その他の回答者の8割は一部については知っていたと回答している。
- 4) 図1及び図2のGISデータは、基盤地図情報25000レベル（神奈川県）国土地理院及び国土数値情報（自然公園）国土交通省、同（湖沼）、同（鉄道）を使用して作成した。